

令和7年度 税に関する作品 作文の部 入賞者一覧

学校名	学年	受賞者氏名
原中学校	3年	飯田 安梨
原中学校	3年	イジャズ ムハンマド フバブ
今沢中学校	1年	岩本 睦
原中学校	3年	島田 怜奈
大岡中学校	3年	鈴木 琴音
大岡中学校	3年	矢澤 愛菜
大岡中学校	3年	山本 啓人

税から考える持続可能な未来

沼津市立原中学校 3年

飯田 安梨

今年の夏、私は家族と箱根に旅行に行きました。その際「宿泊税」という言葉を聞きました。最初、「宿泊するならお金を払うのは当然じゃない？なんで税なの？」と思いました。

気になって調べてみると、「宿泊税とは、都市の魅力を高めるとともに観光の振興を図る施策に要する費用に当てるため、課税する地方税のこと。」とありました。ホテル代、宿泊代とは別に市町村に対して税金としてお金を払い、そのお金が地域の役に立つことになると知り、驚きました。

なぜ、このような税があるのでしょうか。日本のあちこちにはとてもきれいな景色、歴史を感じる建物や日本ならではの文化を感じられるものがたくさんあります。だから、私も旅行することが好きだし、きつと多くの人も観光することが好きなんだろうと思います。地域独特の良さを感じられる観光業は、日本で重要視されている産業のひとつになっています。

ですが、最近「オーバーツーリズム」という言葉を聞くことがあります。富士山が店の上に乗っかって見えるコンビニにたくさんの方が集まって、周囲の通行に迷惑な状況になったニュースを見ました。町は、安全のために柵や幕を設置して対応したそうです。私が訪れた旅行先でもわかりやすい案内看板や歩きやすく舗装された道路がありました。

これも、きつと観光客が心地よく過ごせるために整備されたもので、ニュースや授業でも取り上げられるようなごみ問題や道路の舗装の費用問題など、観光地では多くの負担を抱えているんだなあと思ってしまう。人がたくさん来ることで、地域経済が活発化し、自治体の公共サービスの充実に繋がるメリットもあれば、オーバーツーリズムとして渋滞や騒音、ゴミの増加、インフラの負担が増えるなどのデメリットも存在します。宿泊税は、これらのデメリットを減らすための施策といえるでしょう。

このことを踏まえると、「宿泊税は、観光客が使わせてもらう、見させてもらうことに対してのマナーの一つなのでは」と私は考えます。道路整備や案内看板の設置など、私たちの見えないところで支えてくださっている方々の存在ゆえの現状ならば、税として地域に少しでも貢献することは、道理にかなっているのではないのでしょうか。観光客も地域の一員として協力する姿勢は、コミニュケーションが低下している現代で大切なことだと思います。これは日本だけでなく、世界でも同じことです。地域のマナーとルールを知り、持続可能な観光を目指していくこと。そんな未来が私たちからの税で叶うと思うと、必要な仕組みなのではないでしょうか。

私は今年で中学校を卒業します。将来、私が働くことになるとき、税がどう社会を動かすのか、どう役に立つのかを意識できる人になりたいです。

当たり前を支える見えない力

沼津市立原中学校 3年 イジャズムハンマドフバブ

私たちの生活は、たくさんの「税金」に支えられているということを、最近改めて知りました。今までは正直、税金について深く考えたことがありませんでした。ニュースや授業で「消費税が上がる」とか「税金が使われている」と聞いても、どこか他人事のように感じていたのです。でも、社会科の授業や身の回りで起こったことを通して、「税って本当に身近で大切なものなんだ」と思うようになりました。

たとえば、私は毎日学校に通っています。朝、家を出て舗装された道路を歩き、安全に登下校できるのも、信号や歩道橋といった整備がされているおかげです。教室で授業を受けたり、図書室や体育館を使ったりできるのも、すべて税金によって支えられていると聞いて、驚きました。さらに、先生たちのお給料も税金から出ていると知って、「そうか、税金がなかったら、今の学校生活は送れないんだな」と実感しました。

以前、家族がけがをして救急車を呼んだことがありました。そのときも、救急車はすぐに来てくれて、適切な処置をしてくれました。当たり前のように感じていたその出来事も、実は税金によって成り立っていたのです。病院や警察、消防など、私たちを守ってくれている存在は、税金で動いているということを知って、少し考え方が変わりました。

もちろん、税金を納めることは簡単なことではありません。働いて得たお金の一部を、自分のためではなく社会のために使うというのは、時には大変だと感じる人もいると思います。でも、みんなが少しずつ協力して税金を納めることで、誰もが安心して暮らせる社会ができていくということは、すごく大切なことだと思います。

税金は、目に見えにくいところで私たちの生活を支えてくれている存在です。「税金＝取られるもの」と考えるのではなく、「みんなが未来をつくるためのお金」だと考えたら、少し見方が変わってきました。税金は、今だけでなく、これからの社会のために必要な「未来への投資」なのかもしれません。

これから私は、税のしくみや使い道にもっと関心を持っていきたいです。そして将来、私が大人になって働くようになったときは、ただ税金を払うだけでなく、「この税金はどんなことに使われているのか」「どんな社会をつくっていきたいのか」といったことも考えながら、責任ある一人の社会人として行動したいと思います。

社会の未来を選ぶ責任

沼津市立今沢中学校 1年

岩本 睦

七月二十日に、参議院選挙が行われた。両親が期日前投票に行ったり、ニュースなどで政党の公約を党首が討論する場面を見たりし、税金と選挙について興味を持つきっかけとなった。

私たちの社会は税金によって成り立っている。道路や学校、病院、公園など、身の回りの公共施設はもちろん、警察や消防、福祉や教育などの様々なサービスも、すべて税金によって支えられている。こうした制度があるからこそ、誰もが安心して暮らせる。しかし、税金は集めて終わりではなく、使い道を誤れば社会に不利益をもたらす。限りある資源を有効に使うためには、使い方についても十分な議論と判断が必要となる。

今回の選挙では、立候補者が様々な政策を訴えていた。特に印象に残ったのは、「物価高から人々を守るため、責任を持って減税を行うべきだ」という主張や、「消費税を0にすることで家計の負担を軽くする」「手取りを増やすために、給与に直接かかわる政策を推進する」など、税金や暮らしに直結する内容が多かった。こうした政策は、すべての税金の集め方や使い道の見直しと深く関わる。有権者がどの候補者を選ぶかによって、社会の仕組みや私たちの将来も大きく変わっていくということを実感した。

一票だけで何かが変わるわけではないと感じることもあるが、多くの人が自分の意思を持って投票することで、社会全体の方針が動く。自分にはまだ選挙権はないが、将来その権利と責任を持つ立場になった時には、社会の仕組みに関心を持ち、納めた税金がどう使われるべきなのかをしっかりと考えて一票を投じたいと思う。

税金と選挙は、社会を支える大切な制度だ。最近の選挙を通じて、この制度が自分たちの暮らしや未来をどれほど左右するかを実感した。選挙という機会を通して、市民一人ひとりが社会の出来事や課題に目を向け、意見を持つことが大切であり、それがより良い社会をつくる第一歩だと感じた。学校の授業やニュースで知識を深めることはもちろん、家族や友人とも社会について話し合い、自分の考えを整理することがこれからますます重要になるだろう。いつか自分も実際に一票を投じられる時が来たら、周りの人や、社会全体のことを真剣に考え、自分の意志と責任を持って社会に参加できるようにしたい。そのためにも、これからも日々社会のことに関心を持ち続け、正しい判断ができるよう努力していきたいと思う。

税金と私の未来

沼津市立原中学校 3年

島田 怜奈

私は中学三年生になり、どこの高校に進学するのか、進学した後は何をしたいのかなど、自分の将来についてより真剣に考えるようになりました。今まではただ楽しく過ごしていました。が、受験勉強や高校の体験入学、友達との会話の中で、将来に関する話題が増え、自分の夢や将来のことを考える時間が自然と増えてきました。

私の将来の夢は、医者になることです。しかし医者になるためにはたくさん勉強が必要で、学費も高いことを知りました。夢を叶えるためには、自分の努力はもちろん大切ですが、それだけではなく社会の支えも必要であることに気づきました。たとえば、医療の設備や学校の施設、さらには安全な社会環境が整っていることなど、周りの支えがあつて初めて自分の夢に向かって努力できるので感じます。

最近、ニュースやテレビの番組で税金について知る機会がありました。私たちが毎日使っている教科書や校舎、先生の給料の一部は税金によって支えられていることを知りました。さらに、病院や救急車、消防車、警察なども税金で運営されていることが分かりました。もし税金がなかったら、学校や病院の設備が十分に整わず、私の夢を追う環境も非常に厳しいものになるだろうと思います。

特に、大学の医学部は学費が高く、専門的な設備や技術が必ずです。最新の医療機器や研究施設、実習環境を整えるためにも、多くの税金が使われています。だからこそ、税金は私の夢を支えてくれる大切な仕組みなのだと思ってきました。私が安心して勉強できるのも、こうした税金によって支えられた社会のおかげです。

また、災害が起きた時も避難所や救援活動に税金が使われています。自然災害や事故などの緊急事態に、私たちの命や生活を守るための支えになっているのです。税金はただお金を取られるものではなく、社会全体で助け合うための仕組みであり、私たちの安全や未来を作る大切な力なのだと思います。

将来は私も社会人として働き、税金を納める立場になります。自分が納める税金が、誰かの夢や希望を支えると思うと、責任感もわいてきます。税金は社会のみんなで支え合い、安心して暮らせる環境を作る力であり、私たち一人ひとりの未来を守る力でもあるのだと感じます。

これからも夢をあきらめずに努力し続けるとともに、税金の大切さを忘れず、社会の一員として責任を果たしていきたいです。夢を叶えるためには、自分の力と同時に社会の支えが必要です。だからこそ、税金を大切にしながら、未来に向かって一歩一歩進んでいきたいと思っています。

税のある社会にありがたみを

沼津市立大岡中学校 3年

鈴木 琴音

私は政治や経済が好きでよく調べることがあります。その中で私はよく目にする言葉があります。それは、税金・消費税についてです。最近、物価高になっている中、政治の面でも、経済の面でも注目されているのが税金だと思います。その話を見て私は一つの疑問が湧きました。なぜ税金は必要であり、私たちの生活にどのような影響を与えているのか、ということです。

まず考えるにあたって、税金とは一体何なのかについて調べてみることにしました。すると、年金・医療などの社会保障、福祉や水道、道路などの社会資本整備、教育や警察、防衛といった公共サービスを動かすための資金であるということがわかりました。実際に私も怪我や体調不良で病院に行ったときに、思っていたよりも少ない金額で治療を受けられることに驚きました。それに加えて、海外の医療費はとて高く、アメリカで入院を一日した場合、約数千ドルを支払うことも知りました。このことから日本は医療や、福祉のことに税金を使うことで、私たちの負担を少なくしてくれているのだとわかりました。

ではなぜ、今の社会ではこのような税の恩恵よりも税の負担や負のイメージが強調されているのか。私は税のある生活があたり前になっているからこそ、そのあたり前に感謝を感じず、

今の生活をもっと楽に変えたいという人間の欲がでてきてしまっているからだと思います。だからこそ人は、税金の目的などよりも先に目の前の減税をすることでお金がもっと手元に残るという欲をとるため、減税を求めているのではないのでしょうか。しかし、税がなくなることは本当にいいことでしょうか。私は一度税がない世界を考えてみることにしました。税がない世界、調べてみると実際に南太平洋に浮かぶナウル共和国には税金がないことを知りました。その理由はリン鉱石の発掘によるものでした。しかし、これは二〇世紀までの話。いまではリン鉱石は枯渇し、失業者が急増、経済が破産状態になりました。日本で考えたときにも、全ての税金がなくなることとは、私たちに一番近い教育の面では、中学校の教科書代や、公立中学校でも授業料等が取られ、教育にかかるお金は数十万〜数百万円を超える場合だってあり得ることになります。医療の面では医療費は全額負担となり、高すぎていけない人が増えます。お年寄りも、介護施設などの設置が十分に行われず、困ったときに頼れる場所がなくなってしまうと思います。税金がなくなってしまう方が、私たちは生活が困ってしまう状態になるのではないのでしょうか。

自分たちの暮らしにどれほどの税金が使われているのか。その税金で私たちの生活はどれほど賄われているのか。国民の一人として、税金のありがたみを今一度しっかりと考え、将来のことを考えていくことが大切だと思います。

税金に込められた思い

沼津市立大岡中学校 3年

矢澤 愛菜

「病気にかかりにくく、体が強い子の方が損である。」

皆さんはこんな言葉を目にしたり、聞いたりしたことはありませんか？私は実際にSNSでこのような書き込みを見かけたことがあります。この言葉を聞いてどのような感じでしょうか。私は初めてこの言葉を見た時とてもショックを受けました。なぜなら、この言葉は健康で体の強い人たちを否定しているようにも、体の弱い人たちに不満を言っているようにも感じられたからです。きっと、多くの人も同じように驚きや違和感を覚えたと思います。ですが、色々な考えが広がるこの世の中でこのように思っている人は少なくないのかもしれない。確かに、今の日本では大半の医療費を税金が補っています。病院に頻繁に通う人たちや、長期にわたって治療を続けている人たちのために多くの税金が使われているのは事実です。そのことに対して不平等だと声を上げる人がいてもおかしいことではないのです。

しかし、病気に苦しむ人たちがいる中でこのような意見は称賛されるべきではないと私は思います。障害を持つ人、病気と戦う人も私たちと同じ大切な社会の一員です。小さな頃から入院を余儀なくされている子たちは学校に行ける機会も少なく、みんなと同じような生活を送ることができません。私たちが

日々利用している公園や道路にだって当たり前のようにには行けないのです。今あげた学校、公園、道路は全て税金で維持、整備されています。多くの人は、税金と聞くと病院や公共サービスを思い浮かべるかもしれませんが、実際には私たちの生活の色々な場面に税金は使われています。道路の整備や学校の建設、公共の安全を守るための警察や消防の活動、そして医療や福祉の支援など、多くの公共サービスは税金によって支えられています。今、当たり前前に日々を送れること、道路が整備されていることは決して当たり前ではないのです。もしも税金がなければ、道路や学校、病院といった公共施設は維持できず、私たちの暮らしは大きく変わってしまいます。

お金という形にはなってしまうけれど、病気に苦しむ人たちや未来のために投資を行うことで多くの人々の生活が平和に保たれ、安全な社会を作ることができます。そのため税金を払うことは、単なる義務ではなく社会の一員としての責任と感謝の気持ちを表す行動であり、大切な経験だと私は思います。

このことから、今の私たちの生活は税金で支えられていてその奥には多くの人々の思いやりが溢れていると思います。税金を通して様々な恩恵を受けることのできる今を大切にしたいです。さらに、私は姿を見ることができない誰かのために思いやりを届けられるような人になりたいです。

九年間の思い出

沼津市立大岡中学校 3年

山本 啓人

僕は、小学校のときから気になっていたことがありました。

「なぜ、漢字ノートは何円かがついているのに教科書にはそれがついていないんだろう？」

年が上がっていくにつれ、この教科書には税金が関わっていて、それのお陰で教科書が無料になっているというのを知りました。いつもは YouTube などにある教科書の落書きをネタにした動画などを見て面白がっていたり、教科書は無料だからなくなっても許されるのではないか。と思ったりしていましたが、税金は僕の親などの大勢の大人たちが払いたくもないのに払っているということを知った今では、別に YouTube の落書きの動画を見ることはいいこと、教科書に落書きをするとは本当はやってほしくないが、やってしまう仕方のないことと知っているが、教科書を落書きするものだと思っている人がいて、教科書が使えなくなるほどになってしまうのだったら、その税金を払ってきた大人たちに申し訳ないように思えてきました。

少し経って僕は、今、僕が使っている教科書の定価ってどのくらいなんだろうな。と考えました。一般社団法人教科書協会のホームページで調べてみた結果、主要五教科で四四三八円、技能教科と道徳も合わせると、八三九五円もします。一教科だ

いたい八四〇円ずつぐらいです。それを自販機の三ツ矢サイダー（一つ二〇〇円と仮定します）に置き換えると、1教科で四本買うことができます。そう考えると、一つの教科書が使えなくなっただけで税金が三ツ矢サイダー四つ分消えてしまうことになりす。

この世界では、日本のように教科書が無償で給与される国、アメリカのように無償だがレンタルで貸し出しされている国、シンガポールのようにそもそも教科書が有償の国があります。レンタルで貸し出しされている国では、使い回しのため書き込み自体が禁止されていて、それでも教科書に書き込みしてしまったり、教科書が著しく損傷してしまった場合は、業者から請求書が送られてくるそうです。そもそも教科書を使っていない国も多いので、各自が教科書を持つことはないそうです。このことを調べたとき、教科書が無償で給与されている国は世界で見たら珍しく、だからこそ今配られている教科書を大切にしていきたいなと思いました。

高校に入ると、義務教育ではなくなるため教科書は無償化されないということを使うとあと半年間、いつも以上に教科書を使いたい使っていきなと思いましたが、これを機に、九年間も使い一緒に勉強してきた教科書に落書きをせずに、集中して授業を聞いていきたいと思いました。